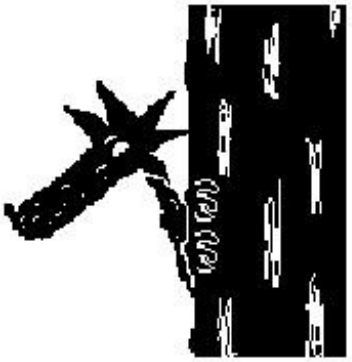
つきのこいびと

さく・え　kino



とある森に　1ぴきの　オオカミが　いました。
オオカミは　あばれんぼうなので、森の
どうぶつたちに　とても　こわがられていました。

オオカミは　きょうも　どうぶつたちを
おいかけまわして　あばれていました。
どうぶつたちは　まいにち　まいにち
おいかけられて、とっても　とっても
こまっていました。

そのとき、１ぴきの　カラスが
おおごえで　なきました。

「みなさん！　もうすぐ　よるですよ！
日が　しずみますよ！」

すると　オオカミは　あわてて
おうちに　かえっていきました。
どうやら　オオカミには　なにか
ひみつが　あるようです。

ぶるぶるぶる…　ぶるぶるぶる…
オオカミは　ふるえていました。
「くらいよ～。こわいよ～。」
なんと　オオカミは　おどろくことに
よるが　こわかったのです。

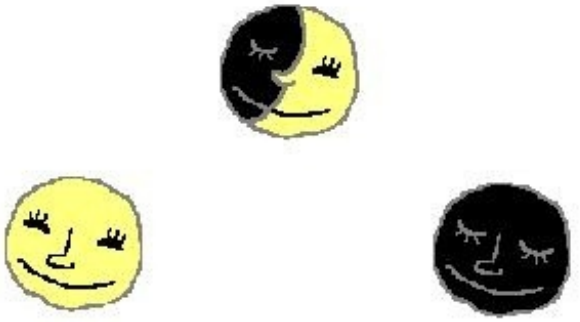
そこに　1ぴきの　フクロウが　やってきました。
「おまえさん、よるが　こわいのかい？
　ひるまは　あんなに　あばれているくせに。」
オオカミは　ふるえた　こえで　いいました。
「くらいのは　だめなんだ。たすけておくれよ。」
「たすけてやってもいいが…。」
フクロウは　すこし　かんがえて　いいました。
「もう　あばれないと　やくそくできるかね？」
オオカミは　なきながら　いいました。
「やくそくする！　やくそくするとも！」

「おまえさん、よるに　空を　見たことはあるかね？
見たら　きっと　よるが　こわいなんて
おもわなくなるよ。ここじゃあ　木が　じゃまで
よく　見えないだろう？　今から　森を　出てみよう。」
フクロウは　オオカミを　つれて、森を 出ていきました。

森を　ぬけると　そこは　ひろい　そうげんでした。
「さぁ、ついたよ。目を　あけて　みてごらん。
ちっとも　こわくないから。」
オオカミは　おそろおそる　目を　あけました。

オオカミの　青い目には　きいろく　かがやく
まるいものが　うつりました。
「あれは　お月さまと　いうんだよ。」
フクロウは　えがおで　いいました。
「おつきさま．．．」
オオカミは　まばたきするのも　わすれて
じっと　月を　みつめていました。
「おつきさま．．．」
オオカミは　はじめて　よるに　わらいました。

「おまえさんは　もう　だいじょうぶだね。」
フクロウは オオカミのもとから とびさっていきました。
「おつきさま．．．」
オオカミは いつまでも　月を　みつめていました。
はじめてみる 月は、とても 大きく、とても　きれいで、
そして なにより、とても　やさしい かんじがしました。



つぎの日から、オオカミは　よるになると
森を出て、月を　みにいきました。
月は　まいばん　すこしずつ　かたちを　かえました。
しかし、それもまた　みりょくてきでした。
くもが　月を　かくす日も　オオカミは
ずっと　ずっと　待ちました。
もう　オオカミは　よるが　こわくありませんでした。
そして、もう　あばれることも　ありませんでした。

オオカミは　月に　こいを　しました。

オオカミは　まいばん、月に　むかって　じぶんの
おもいを　さけんでいました。
「お月さま、あなたは　よるに　おびえている
　ボクを　たすけてくれました。
　あなたは　とても　きれいで　みりょくてきです。
　ボクは　あなたに　こいをしました。
　あなたのことが　すきになってしまったのです。」
けれど、月は　とても　とおいところに　いたので、
オオカミの　こえは　とどきませんでした。
月は　こんやも　ただ　しずかに　空を
ゆっくりと　さんぽしています。

それでも、オオカミは　まいばん　さけびつづけました。
「お月さま、ボクは　あなたのことが　すきなのです。
　あなたの　おかげで　ボクは　やさしくなれました。」
やっぱり　月は　なにも　いいません。
「どうして　なにも　いってくれないのですか？」
オオカミは　まいばん　なきました。

赤や　きいろの　はっぱも　おちて、ふゆが
かおを　のぞかせました。
オオカミの　こえは　だんだんと　かれていきました。
そして、とうとう　こえが　でなくなりました。
それでも、オオカミは　まいばん　森を　出ては、
月を　みにいきました。

オオカミの　からだは　もう　ぼろぼろです。
目も　わるくなり、月の　光さえ　かすかにしか
見えなくなってしまいました。

ふゆの　いちばん　さむい日。
オオカミは　とうとう　うごかなくなってしまいました。

オオカミの　すがたを　みて、
月は　はじめて　なきました。

月の　なみだは　やがて　雨になり、
オオカミを　やさしく　つつみこみました。
すると、オオカミの　からだは　ゆっくりと
空に　むかって　のぼっていきました。

ふゆも　おわり、きせつは　はるに　むかいます。
月は　こんやも　ただ　しずかに　空を
ゆっくりと　さんぽしています。

1つの　小さな　ほしと　いっしょに。

おしまい。